

さくら第475号

令和元年7月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7:TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

あとしち
 てきぬんたよ
 なあ
 いまのことは
 いましかできぬ
 ありを

『返事はハイ、うん、どっち?』

気になる事があります。名前を呼んだ時の返事や、話のなかでの受け答えで「うん」という人がとても多くなってきたことです。

また、返事をするタイミングが遅い人がいる反面、話のどちゅうで「うん、うん」と言って話をさえぎる人もいます。園児から六年生、なかには中学生になっても、返事はいつも「うん」。

話す相手が年下とかとても親しい友だちならそれもゆるせるかもしれませんが、目上の人に対しての返事が「うん」では、ばかにされます。まして、大人になって仕事をするようになって「はい」と言えずに「うん」では困ります。

400年ほど前の江戸時代に書かれた書物の中に、「ウンという最低の返事もしないで」と書いてあるそうです。ある事をたのまれた人が相手に対して、「ハイかしこまりました」と返事しているようすもあります。

「うん」についての説明では、相手の言ったことに分かりましたと同意する時の声であり、親しい人に対して使うとある辞書にあります。

「はい」、「ええ」よりもていねいさが低いとあります。また、力を入れて動作をする時に思わず出てくるのが「うん」です。

なにはさておき、返事は明るく「はい」と言いましょう。漢字では「拝・はい」をあてるともいいます。そして必ず話す相手の目を見て返事をしまししょう。お互いが気分よく話したいものです。今、「うん」という言葉ばかり使っている人は何歳まで使うのでしょうか。ずっと大人になり仕事にいくようになって「うん」と返事してい

れば、上の人からはバカにされますよ。

中学生になったら返事は「ハイ」というのでしょうか? 「三つ子の魂(たましい)百まで」というように一度ついたクセはなかなか治らないものです。なおそうという気があるなら、たった今から返事は「ハイ」にしまししょう。

もう一つ気になることがあります。「どっこいしょ」、「よっこらしよ」と言いながらイスに腰かけたり、立ち上がる人がいます。この言葉は、お年寄りになって足腰の筋肉が弱まった人が思わず口から出るものと思いますが、小学6年生だけではなく、2年生や一年生までが言うのでおどろきます。

体力がなく、何かによしかからないと座ったり立ったりできないのかと思うとこの先どうなるのか心配です。

「どっこいしょ」の元の言葉は、「六根清浄・ろっこんしょうじょ」からきているといえます。仏教用語であり、六根とは、眼(視覚)、耳(聴覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)、身(触覚)、意(意識)のことです。この六つの器官が正常に働かないと正しい道を進むことができません。

迷いを断ち、身も心も清めるという意味で六根清浄と言いながら山を登るのです。日本には古来から山岳信仰(さんがくしんこう)という思いがあり、急な坂道を上り下りする時は腹に力を込めて歩きます。

何処へ(どこへ)が、どっこ、どっこい、と変化してどっこいになったと言う説があります。人間は息を吸いながらでは力が入りにくく、息を吐く時や息を止めた時に力が入ります。

「よっこいしょ」と言えば、自然と息を吐くことができるため、無駄な力や、力みがなくなり必要な力だけが発揮できます。

どっこいしょ、よっこらしよと言うのが次の動作への単なるかけ声なら、それも仕方ないかなと思いますが、人生百年の時代になる今、ほかに違う言葉がないのでしょうか。お年寄り言葉が続くと、身も心もそのようにならないか不安です。元気いっぱい明るい声で挨拶を。